

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2317 号

Predicting Bacteremia Based on Nurse-Assessed Food Consumption at the Time of Blood Culture

(血液培養施行時における食事摂取量を用いた菌血症予測に関する検討)

小松 孝行 (こまつ たかゆき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、単施設での後方視的観察研究ではあるものの、感度 92.0%、陰性的中率 98.3% をもって食事摂取良好患者が菌血症でないとする菌血症診断における有用な予測因子であることを初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。菌血症は患者予後を左右する重要な疾患であるが、確定診断のためには血液培養検査が必須である。しかし、その施行基準は各臨床医の判断に委ねられ、その結果コンタミネーションが適切に認識されず本来不要である抗菌薬治療が行われることもあった。これまで菌血症の存在に関しては悪寒・戦慄の有無との関連性が高いとする報告はあったが、菌血症でないことを示唆する臨床的に有効な予測因子は認めなかった。本邦で日常看護業務の一環として測定されている食事摂取量は、再現性にも優れており、施設間格差が少ない指標であると考えられる。また外来診療においても、本研究の如く 8 割の食事摂取量の有無を確認するだけでも菌血症診断の一助になり得るため、各臨床医にも共通認識とすべき内容であるが、より強固なエビデンスとするために今後の多施設前向き研究に期待したい。以上より食事摂取量が菌血症診断における単純かつ有用な予測因子になると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。